



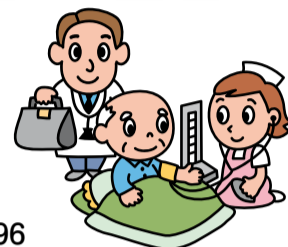
◆人口	132,853人	(-363人)
	【うち外国人1,514人(+149人)】	
男	65,444人	(-209人)
女	67,409人	(-154人)
◆世帯	57,200世帯	(+485世帯)
	1月1日現在 () 内は対前年同月比	

在宅医療と介護の連携

在宅医療について、どのようなイメージをお持ちでしょうか？

現在はほとんどの方が病院で最期を迎えられています。平成26年度に市が実施した介護に関するニーズ調査では、高齢者の半数が病気になっても住みなれた我が家で、家族や友人に囲まれ充実した療養生活を送りたいと望んでいます。今号をきっかけに在宅医療について考えてみませんか。

企画 我孫子市在宅医療介護連携推進協議会 広報部会 図 高齢者支援課・内線396



身近な事例から考える「在宅医療」

在宅医療と言っても、その方の病気や思いによって、いろいろなサービスがあります。

在宅医療を知っていただくために、訪問診療の医師が関わっている一つの例を紹介したいと思います。

在宅医療については、まずかかりつけ医または高齢者支援課、各地区の高齢者なんでも相談室にご相談ください。



我孫子医師会 成廣朗会長

脳梗塞により左半身や飲みこみに麻痺が残り在宅で生活しながらリハビリに励む

70代後半の男性、妻と2人暮らし

3年前

脳梗塞で入院している時から「自分のことは自分でやりたい」という思いがありました。しかし退院にあたり、自宅の玄関や風呂場に段差があり、妻も「家でみるができるかしら？」と不安そうに話していました。

現在

介護保険サービスによる住宅改修、歩行器のレンタルなどを利用し、移動や入浴も不安なくできています。また、月1回の医師の訪問診療、週1回の訪問看護、訪問リハビリを利用しながら体調の管理やリハビリに励んでいます。

医師の訪問時には「家族も近所の人もいるし、やっぱり家がいいね」と笑顔で話され、趣味で書いた絵も見せてくれます。

かかりつけ医を持ちましょう！

かかりつけ医がいれば、いざという時に相談ができます。

元気な方も、定期健(検)診などを通じて、かかりつけ医を持ちましょう。



1 身近で安心

医師が訪問するので、自宅で診療を受けることができます。また、かかりつけ医なら不安な気持ちなども相談できます。



急性期・回復期病院



高齢者なんでも相談室

主治医

2 適切な医療

がんなどで痛みがあるときでも、自宅で痛みを和らげる治療を受けることもできます。また、医療費は入院よりも安くなります。



歯科医



薬剤師



自宅での生活を支える多職種のサポート



訪問看護師



ケアマネジャー

3 家族の介護負担にも対応

状態によって、医師だけでなく、看護師、薬剤師、歯科医師、ヘルパーなどの多くの職種の人々が自宅に来て、ケアを受けることができます。



ホームヘルパー

4 自分らしく暮らせる

外出したり、友達を呼んだり、家族とだらんがができます。

在宅医療・介護の充実に向けて

市では、在宅医療を提供する体制づくりを進めており、在宅医療・介護に関わる多職種で「我孫子市在宅医療介護連携推進協議会」を設置しています。

在宅医療・介護の推進に向けて、課題の検討や研修、そして顔の見える関係づくりを目的とした多職種交流会を開催するなどの取り組みを行っています。



住みなれた地域で安心して生活するために



我孫子市長 星野 順一郎

団塊の世代が75歳以上となる平成37年には、さらに高齢化が進むといわれており、市の高齢化率も現在の27%から32%を超えることが予想されています。

こうした中、市では昨年「高齢者や家族が住みなれた地域で安心して暮らせる地域づくり」を目的として、「第6期介護保険事業計画・第7次高齢者保健福祉計画」を策定しました。この計画に基づき、医療と介護の連携や、認知症施策の推進、

介護サービスの充実、介護予防への積極的な取り組みなど、医療・介護・予防・住まい・生活支援の一体的なしくみである地域包括ケアシステムの構築に向けて、今後も積極的に施策を進めてまいります。

【平成28年度有料自転車駐車場の一斉募集受付は2月14日(日)までです】

現在利用中の方も申請が必要です。詳しくは広報あびこ1月16日号をご覧ください。 ☎(公社)我孫子市シルバー人材センター ☎7188-2345 (平日8時30分~17時)